

# 新型コロナウイルス感染症パスの標準適用日数を超えた患者の分析

住友別子病院

○岡田貴子 和田桂子

## はじめに

- 当院は2021年10月より新型コロナウイルス感染症（以下、コロナとする）患者の入院受け入れ開始
- 2024年3月末時点で受け入れ患者数296人（入院時にコロナと診断されて入院した患者数）
- 新型コロナウイルス感染症と治療薬液ごとのパスを作成し運用
- 新型コロナウイルス感染症のパスは発症日/入院日を1日とし、標準適用期間は10日間に設定し運用

2023年4月～2024年3月末

- |                  |       |
|------------------|-------|
| ◆患者数             | 87人   |
| ◆平均年齢            | 77.9歳 |
| ◆平均在院日数          | 14.2日 |
| ◆一般病棟へ転棟した患者数    | 20人   |
| ◆死亡者数            | 4人    |
| ◆パス標準適用日数を超えた患者数 | 29人   |

**適用基準**

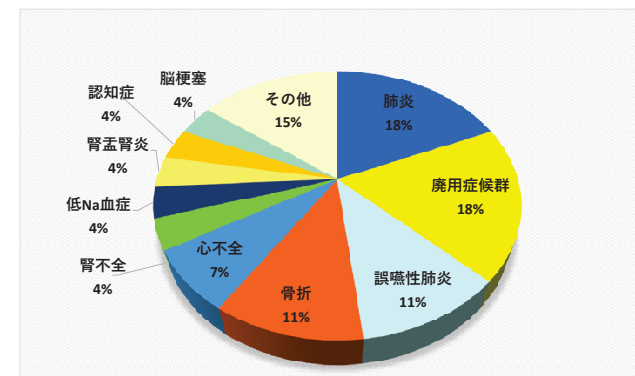
- ☐ covid-19感染者である  
☐ 入院治療が望ましい

[illegible]

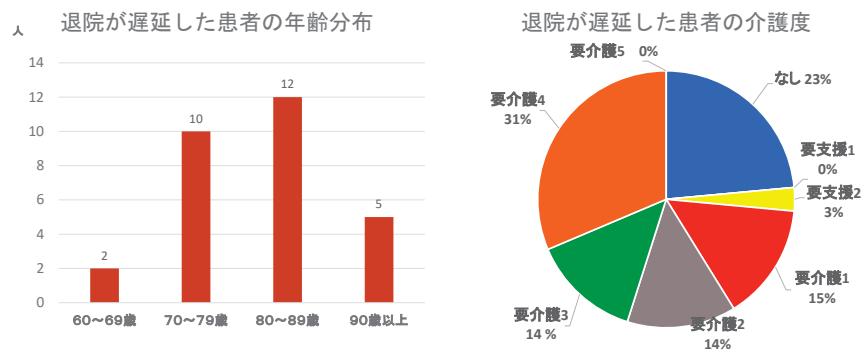
## 入院患者の在院日数



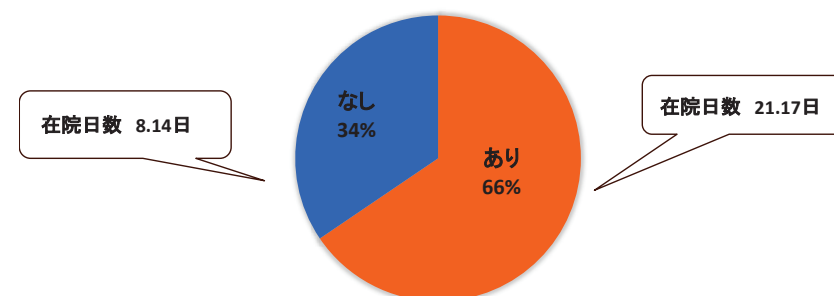
## コロナ発症を契機に発症した疾患



## 年齢分布と介護度



## リハビリ介入の有無と在院日数



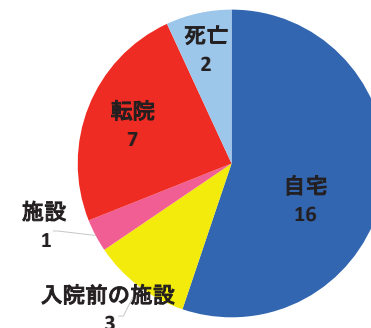
## 標準適用期間を超えて入院した患者の実際

- 個室で隔離期間を過ごすため活動量が減少
- ADLの低下
- 疾患に伴う体力の低下
- 高齢者の場合、認知機能の低下
- 肺炎を合併していた患者は入院時に絶食になる事も多く、食事再開になってもST介入が遅れ嚥下状態の回復が遅れた



治療を終えても自宅へ帰れない事例が発生  
退院調整を含めた生活様式の再編が必要になった

## 退院先



## パス標準適用期間を超えた要因

- ①コロナ発症を契機とした他疾患の併発（肺炎・発熱による転倒など）  
や既往疾患の増悪があった
- ②ADL低下によるリハビリテーションが必要になった
- ③入院前に比べADLが低下し退院後の生活様式の再編が必要になった

## 今後の取り組み

入院早期から

- リハビリテーションを開始しADLの低下を防ぐ
- 家族からの情報収集を通じて、患者が退院するために「なにが問題か」「なにが必要か」を把握する
- 退院調整が必要な患者を見極め、早期のMSWの介入を依頼する



早期からの多職種カンファレンスの充実